神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

Two type of relative clauses in Swahili

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2012-10-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 米田, 信子, Yoneda, Nobuko メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/1391

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

スワヒリ語における２種類の関係節*

米田 信子

キーワード：スワヒリ語，関係節，内の関係・外の関係

1. はじめに

スワヒリ語には 2 種類の関係節がある。このうち一方の関係節には共起できる時制接辞や語順に制限がある。先行研究ではこれらの制限の有無が 2 種類の関係節の違いであるとされてきた。しかしながらこれまでの研究は，いわゆる「内の関係」にしか目が向けられておらず，「外の関係」について扱われることはなかった。そこで本稿では，内の関係だけでなく，これまで論じられることのなかった外の関係における 2 種類の関係節の振る舞いを検討し，これらの関係節の違いを明らかにする。

2. スワヒリ語の関係節の構造と制限

スワヒリ語の関係節は，関係接辞と呼ばれる接辞（以下R接辞）がつくことによって示される。R接辞は主名詞に呼応した形で現れるが，関係節の種類によってこの接辞がつけられる位置が異なる。一方の関係節では，関係詞amba-[1]を主名詞の直後に

---

* 本稿は 40th Colloquium on African Languages and Linguistic（2010 年 8 月 24 日，於：ライデン大学，オランダ），International Workshop on Cross-linguistic Studies on Clause combining（2010 年 10 月 31 日，於：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所），第 141 会日本言語学会大会（2010 年 11 月 27 日，於：東北大学）での口頭発表が基になっている。発表に対して数々の有益なコメントやご指摘をくださった方々に，また本研究のきっかけを作ってくださった益岡先生をはじめとする対照研究セミナーのメンバーのみなさんに感謝の意を表したい。たくさんの有意義なコメントをいただきながら，筆者の力不足とデータの不足のためにそれらをまだ十分に反映させることができていないところもある。それらについては今後の研究にぜひ活かしていきたいと考えている。言うまでもなく，本稿の誤りや不備はすべて筆者自身の責任である。なお本稿で用いるスワヒリ語のデータは，2010 年度科学研究費補助金 基盤研究(C) 「東・南部バントゥ諸語における動詞派生形の記述・比較研究」（課題番号 22520433，研究代表者：大阪大学 小森淳子）によって，7 月に大阪でザンジバル島出身のタンザニア人 S・I・H 氏(20 代女性)から，および 2010 年 8 月にタンザニアのザンジバル島で H・G・H 氏(40 代男性)と M・M・M 氏(50 代男性)から，筆者が収集したものである。

[1] amba-は「言う」という意味を表す動詞-amba に由来する。ただし現在では，動詞として用いられるのは-ambia「～に伝える」という適用形のみで，-amba がそのままの形で動詞として用いられることはない。

挿入し，それにR接辞をつける。本稿ではこれを「amba関係節」と呼ぶことにする。もう一方の関係節では，関係詞amba-を挿入することなく動詞のテンス・アスペクトを示す接辞（以下TA接辞）の後ろ，すなわち動詞の内部にR接辞がつけられる。

本稿ではこれを「amba-less 関係節」と呼ぶことにする。amba 関係節と amba-less 関係節は，それぞれ(1a)，(1b)のように構成され，主名詞の後ろに続く。以下，主名詞を太字で表す。

(1) a. amba 関係節

主名詞 ＋	amba－R 接辞 ＋（主語名詞＋）	主語接辞－TA 接辞－（目的語接辞）－動詞語幹
kitabu	amba-cho	mwalimu	a-li-ni-pa
7 本	amba-R7	1 先生	SM1-PAST-OM1sg-与える/F[2]

「先生が私にくれた本」

b. amba-less 関係節

主名詞 ＋	主語接辞－TA 接辞－ R 接辞 －（目的語接辞）－動詞語幹	＋（主語名詞 ）
kitabu	a-li-cho-ni-pa	mwalimu
7 本	SM1-PAST-R7-OM1sg-与える/F	1 先生

「先生が私にくれた本」

amba-less の関係節には(2)のような制限がある。

(2) amba-less 関係節の制限

① 使用できる TA 接辞は現在 na-，過去 li-，未来 ta(ka)-，無時制否定接辞 si-のみ

② 主語接辞は肯定形のみ

③ 主名詞の直後に動詞を続けなければならない

（Ashton 1947，Schadeberg 1992，中島 2000 他）

---

[2] 本稿で用いる略号は次のとおりである。SM=主語接辞，TA＝テンス・アスペクト，FUT=未来，PAST=過去，PERF＝完了，R=関係接辞，PASS＝受身形，APL＝適用形，F=基本語尾，OM=目的語接辞。スワヒリ語には「名詞クラス」と呼ばれる名詞の分類がある。名詞クラスとそれを基にした文法呼応のシステムはバントゥ諸語に共通する特徴で，比較研究のために名詞クラスにはバントゥ祖語を基にしたクラス番号がつけられている。本稿ではそれに沿って名詞クラスに番号をつける。例文のグロスにつけた数字が名詞クラスの番号である。名詞についている場合はその名詞が属している名詞クラス，名詞以外についている場合は，呼応している名詞の名詞クラスを示す。人称と数に呼応している場合（その場合は代名詞として機能）は，1sg, 1pl, 2sg, 2pl, 3sg, 3pl と表す。

①は共起できるTA接辞の制限である。たとえば(3b)のようにTA接辞に完了me-が用いられる場合には①の制限によりamba-less関係節は非文となる。また未来時制の場合は肯定形と否定形で同じTA接辞ta(ka)-が用いられるが，否定文の場合には主語接辞が否定形となるため，②の制限によってamba-less関係節は使えない[3]。③は語順の制限である。スワヒリ語の基本語順はSVOであるが，amba-less関係節では主名詞の直後に動詞を続けなければならないため，主語名詞がある場合には，それを動詞の前に置くことはできない。したがって(5b)のように主名詞と動詞の間に関係節の主語名詞を置くと非文になる。

(3) a. **mti** amba-o u-me-anguk-a
3 木 amba-R3 SM3-PERF-倒れる-F
「倒れている木」

b. ***mti** u-me-o-anguk-a
3 木 SM3-PERF-R3-倒れる-F

(4) a. **chombo** ni-taka-cho-tumi-a kesho
7 道具 SM1sg-FUT-R7-使う-F 9 明日
「明日私が使う道具」

b. ***chombo** si-taka-cho-tumi-a kesho
7 道具 否 SM1sg-FUT-R7-使う-F 9 明日
「明日私が使わない道具」

(5) a. Hiki ni **kitabu** a-li-cho-ni-pa mwalimu jana.
7 これ COP 7 本 SM1-PAST-R7-OM1sg-与える/F 1 先生 9 昨日
「これは昨日先生が私にくれた本です。」

b. *Hiki ni **kitabu** mwalimu a-li-cho-ni-pa jana.

これらの制限があるのは amba-less 関係節だけで，amba 関係節には語順にも共起できる接辞にも制限はない。先行研究では，このような制限の有無が 2 種類の関係節の違いであると言われてきた。しかしながら先行研究で扱われているのは内の関係，つまり主名詞と関係節の間に格関係が認められる場合のみであって，外の関係に見られる違いについては全く検討されていない。

---

[3]現在形と過去形の否定でも主語接辞は否定形となるが，これらの時制の場合は，TA 接辞がそれぞれ，φ-，ku-となり，①の TA 接辞の制限の段階で amba-less 関係節が使えない。

3. 名詞修飾節と主名詞の関係

寺村(1975)以来，日本語の名詞修飾節は，主名詞との間に格関係があるものを「内の関係」，そうでないものを「外の関係」とする分類がなされてきた。さらに「外の関係」は，修飾節が主名詞の内容を補充する場合と，主名詞と修飾節の間に相対的な関係がある場合に分けられてきた（寺村 1975，1977，加藤 2003，堀江・パルデシ 2009，益岡 2010 他）。

(6) a. 車を売った男

b. 車を売った（という）うわさ

c. 車を売ったお金

(6a)は「内の関係」である。主名詞「男」を修飾節「車を売った」の主語とした「男が車を売った」という文が想定できる。一方(6b)と(6c)は，格関係をもつ項として主名詞を修飾節の中に取り込んだ文は想定できないので，これらは「外の関係」である。(6b)では「車を売った」という修飾節は主名詞「うわさ」の具体的な内容を示している。つまり修飾節が主名詞の内容を補充するという関係が存在する。これは典型的には主名詞の前に「～という」を挿入することができる場合である。これに対して(6c)では「車を売った」という修飾節が主名詞「お金」の内容を示しているわけではなく，「車を売った」というイベントの結果として「お金」を得たということである。つまり主名詞と修飾節の間には因果関係という相対的な関係が存在している。

「内の関係」と「外の関係」は次のようにまとめられる。

■ 内の関係　：修飾節と主名詞の間には格関係がある

■ 外の関係　・内容補充関係　：修飾節は主名詞の内容を説明している

・相対的関係　　：修飾節と主名詞の間に相対的な関係がある

これらのうち，内の関係がいわゆる典型的な「関係節」であるが[4]，(6)の例が示しているように，日本語では格関係にない名詞でも，そこに内容補充や相対的な関係が認められる場合には内の関係の場合と同じ形で修飾することができる。

それではスワヒリ語の関係節ではどうだろうか。次節以降で内の関係と外の関係の中でスワヒリ語の関係節がどのように用いられるのかを見ていく。

---

[4] 堀江・パルデシ (2009)では，(6a)を「関係節」，(6b)すなわち内容補充の関係にある節を「名詞補文」，(6c)すなわち相対的関係にある節を「関係節でも補文でもない名詞修飾節」としている。

4. 内の関係

本節では，内の関係における 2 つの関係節の現れ方を示す。各例文とも a が amba 関係節，b が amba-less 関係節である。

(7)は主名詞が関係節の主語にあたる例，(8)は主名詞が関係節の目的語にあたる例である。amba-less 関係節では主名詞の直後に動詞を続けなければならないため，(8b)では関係節の主語 mwanamume「男」が動詞の後ろに置かれ，VS の語順になる。

(7) 「車を買った男」

a.	**mwanamume**	amba-ye	a-li-nunu-a	motokaa
	1 男	amba-R1	SM1-PAST-買う-F	9 車
b.	**mwanamume**	a-li-ye-nunu-a	motokaa	
	1 男	SM1-PAST-R1-買う-F	9 車	

(8) 「男が買った車」

a.	**motokaa**	amba-yo	mwanamume	a-li-nunu-a
	9 車	amba-R9	1 男	SM1-PAST-買う-F
b.	**motokaa**	a-li-yo-nunu-a	mwanamume	
	9 車	SM1-PAST-R9-買う-F	1 男	

次の(9)と(10)は関係節の動詞が適用形になっている例である。適用形になると動詞は受益者や道具を項にとるが，(9)は受益者，(10)は道具がそれぞれの主名詞になっている。

(9) 「ネエマが練り粥を作ってあげた病人」

a.	**mgonjwa**	amba-ye	Neema	a-li-m-pik-i-a	ugali
	1 病人	amba-R1	1 ネエマ	SM1-PAST-OM1-料理する-APL-F	11 練り粥
b.	**mgonjwa**	a-li-ye-m-pik-i-a	ugali	Neema	
	1 病人	SM1-PAST-R1-OM1-料理する-APL-F	11 練り粥	1 ネエマ	

(10) 「ネエマが練り粥を作った土鍋」

a.	**chungu**	amba-cho	Neema	a-li-pik-i-a	ugali
	7 土鍋	amba-R7	1 ネエマ	SM1-PAST-料理する-APL-F	11 練り粥
b.	**chungu**	a-li-cho-pik-i-a	ugali	Neema	
	7 土鍋	SM1-PAST-R7-料理する-APL-F	11 練り粥	1 ネエマ	

amba-less 関係節では主語名詞を動詞の前に置くことができないため，(9b)と(10b)

は主語名詞が後置され，関係節の語順は VOS となる。

次の(11)と(12)は，修飾節が表すイベントが起きた場所と時が主名詞になっている例である。

(11)「ネエマが練り粥を作った台所」

a.	**jiko**	amba-lo	Neema	a-li-pik-a	ugali
	5 台所	amba-R5	1 ネエマ	SM1-PAST-料理する-F	11 練り粥

b.	**jiko**	a-li-lo-pik-a	ugali	Neema
	5 台所	SM1-PAST-R5-料理する-F	11 練り粥	1 ネエマ

(12)「私が練り粥を作った朝」

a.	**asubuhi**	amba-yo	ni-li-pik-a	ugali
	9 朝	amba-R9	SM1sg-PAST-料理する-F	11 練り粥

b.	**asubuhi**	ni-li-yo-pik-a	ugali
	9 朝	SM1sg-PAST-R9-料理する-F	11 練り粥

(7)~(12)が示すように，内の関係においては(2)で挙げた制限が守られる限り，amba 関係節と amba-less 関係節のどちらを用いることもできる。

5. 外の関係

外の関係には，関係節が主名詞の具体的な内容を説明する内容補充の関係にある節と，主名詞と関係節の間に相対的関係が存在する相対的関係の節がある。

5.1 内容補充

内容補充節は，典型的には日本語で主名詞の前に「～という」が入るものである。

(13)「私がその事件についての記事を書く（という）計画」

a.	mpango	amba-o	ni-ta-andik-a	makala	juu	ya	ajali	hio
	3 計画	amba-R3	SM1sg-FUT-書く-F	5 記事	～について		9 事件	9 その

b.	mpango	ni-ta-o-andik-a	makala	juu	ya	ajali	hio
	3 計画	SM1sg-FUT-R3-書く-F	5 記事	～について		9 事件	9 その

(14)「彼らがゲームに負けた（という）結果」

a.	**matokeo**	amba-yo	wa-li-shindw-a	katika	mchezo
	6 結果	amba-R6	SM3pl-PAST-負ける-F	in	3 ゲーム

b. **matokeo** wa-li-yo-shindw-a katika mchezo

6 結果 SM3pl-PAST-R6-負ける-F in 3 ゲーム

(13)の「その事件について書く」と (14)の「サッカーの試合で負けた」は，それぞれ主名詞 mpango「計画」と matokeo「結果」の具体的な内容である。内容補充の関係では，amba 関係節と amba-less 関係節のどちらを使うことも可能である。

ところが同じ内容補充の関係でも(15b)のように主語名詞が動詞の後ろに現れて VS の語順になると amba-less 関係節の容認度は低くなる。さらに(16b)のように動詞の後ろに目的語名詞と主語名詞の両方がある場合には amba-less 関係節は使えなくなる。

(15)「ウサギが競争に負けた（という）物語」

a. **hadithi** amba-yo sungura a-li-shindw-a katika mashindano

9 物語 amba-R9 1 ウサギ SM1-PAST-負ける-F in 6 競争

b. ?**hadithi** a-li-yo-shindw-a sungura katika mashindan

9 物語 SM1-PAST-R9-負ける-F 1 ウサギ in 6 競争

(16)「ウサギがゾウとワニを騙す（という）物語」

a. **hadithi** amba-yo sungura a-na-wa-danganya tembo na mamba

9 物語 amba-R9 1 ウサギ SM1-PRES-OM2-cheat-F 2 ゾウ and 2 ワニ

b. ***hadithi** a-na-yo-wa-dangany-a tembo na mamba sungura

9 物語 SM1-PAST-R9-OM2-騙す-F 2 ゾウ and 2 ワニ 1 ウサギ

これは，主語名詞が後置されることで文法関係が曖昧になってしまうためだと思われる。バントゥ諸語において基本語順 SVO は文法関係が曖昧にならないようにする 'safety-net'であると言われている (Bearth 2003:129)。しかしながら amba-less 関係節では主語名詞を動詞の前に置くことができないため，主語名詞が関係節内に現れる場合には SVO という語順による文法関係の表示はできなくなる。(17)は，主名詞も関係節の中の動詞も(16)と同じであるが，主語名詞は節内になく，一人称単数形の主語接辞 ni-が主語を表す代名詞として現れている。この場合には文法関係は明らかであり，amba-less 関係節を使用することができる。

(17)「僕が近所の人を騙す（という）物語」

hadithi ni-na-yo-wa-dangany-a majirani

9 物語 SM1sg-PRES-R9-OM2-騙す-F 2 隣人

このように，内容補充の関係において amba-less 関係節を用いることができるのは，基本語順に頼らなくても文法関係が明確に示されている場合に限られるということである。これは，(8b)と(9b)が示しているように，内の関係には見られない制限である。

5.2　相対的関係

次に挙げるのは，主名詞と関係節との間に相対的な関係が存在する場合である。ここでは益岡(2010)に沿って，相対的関係を「因果関係類」と「時空間関係類」に分けて見ていくことにする。

5.2.1　因果関係類

(18)は主名詞が関係節の原因となっている例，(19)～(21)は主名詞が関係節の結果となっている例である。

(18)「多くの人が亡くなった病気」：主名詞が＜原因＞

a. ugonjwa　amba-o　watu　wengi　wa-li-kuf-a
　11 病気　amba-R11　2 人々　2 多くの　SM2-PAST-死ぬ-F

b. *ugonjwa　wa-li-o-kuf-a　watu　wengi
　11 病気　SM2-PAST-R11-死ぬ-F　2 人々　2 多くの

(19)「君がジュマを殺した罰」：主名詞が＜結果＞

a. **adhabu**　amba-yo　u-li-mw-u-a　Juma
　9 罰　amba-R9　SM2sg-PAST-OM1-殺す-F　1 ジュマ

b. ***adhabu**　u-li-yo-mw-u-a　Juma
　9 罰　SM2sg-PAST-R9-OM1-殺す-F　1 ジュマ

(20)「食事もせずに畑を耕した疲れ」：主名詞が＜結果＞

a. **uchovu**　amba-o　ni-li-lim-a　shamba　bila　chakula
　11 疲労　amba-R11　SM1sg-PAST-耕す-F　5 畑　without　7 食べ物

b. ***uchovu**　ni-li-o-lim-a　shamba　bila　chakula
　11 疲労　SM1sg-PAST-R11-耕す-F　5 畑　without　7 食べ物

(21)「私が車を売ったお金」: 主名詞が＜結果＞

a. **pesa** amba-zo ni-li-uz-a motokaa
10 お金 amba-R10 SM1sg-PAST-売る-F 9 車

b. ***pesa** ni-li-zo-uz-a motokaa
10 お金 SM1sg-PAST-R10-売る-F 9 車

(18)～(21)が示しているように，主名詞が関係節の＜原因＞あるいは＜結果＞になっている場合には，用いられるのは amba 関係節のみであり，amba-less 関係節は使えない。

次に挙げる例は＜隋伴＞の関係である。(22)の主名詞は，肉が焼かれた結果生じる harufu「匂い」なので＜結果＞としても解釈できるが，＜結果＞の場合は関係節が表しているイベントの後で起きるのに対して，(22)や(23)の主名詞は関係節と同時に起きているので，ここでは＜随伴＞として区別することにする。

(22)「肉が焼かれる匂い」: 主名詞が＜随伴＞

a. **harufu** amba-yo nyama i-na-chom-w-a
9 匂い amba-R9 9 肉 SM9-PRES-焼く-PASS-F

b. ***harufu** i-na-yo-chom-w-a nyama
9 匂い SM9-PRES-R9-焼く-PASS-F 9 肉

(22)が示すように，主名詞が関係節と＜随伴＞の関係にある場合も amba 関係節のみ使用が可能である。ただし同じ harufu「匂い」でも，(23)の「豆がゆでられる匂い」の場合には，amba 関係節も(22a)の「肉が焼かれる匂い」に比べて容認度が下がる。

(23)「豆がゆでられる匂い」: 主名詞が＜随伴＞

a. ? **harufu** amba-yo maharagwe ya-na-chemsh-w-a
9 匂い amba-R9 6 豆 SM6-PRES-ゆでる-PASS-F

b. ***harufu** ya-na-yo-chemsh-w-a maharagwe
9 匂い SM6-PRES-R9-ゆでる-PASS-F 6 豆

これは，肉を焼く場合にはそれによって特別な匂いが発生することが期待されているが，豆をゆでることに対しては，特別な匂いが発生するという意識や期待が希薄であり，因果関係が明確に意識されていないためだと思われる。言い換えれば，amba 関係節の容認度は，因果関係の明確さによる。因果関係が明確でなければ amba 関係節であっても容認度は低いということである。

次の(25)，(26)は，関係節が主名詞の＜目的＞，つまり「～するための・・・」という形である。この場合も amba-less 関係節は用いることができないが，amba 関係節は用いることができる。

(25)「我々が家を借りる（ための）準備」: 関係節が＜目的＞

a. **matayarisho** amba-yo tu-ta-pangishw-a nyumba
6 準備 amba-R6 SM1pl-FUT-借りる-F 9 家

b. ***matayarisho** tu-taka-yo-pangishw-a nyumba
6 準備 SM1pl-FUT-R6-借りる-F 9 家

(26)「我々が議長を選ぶ（ための）助言

a. **shauri** amba-lo tu-ta-chagu-a mwenyekiti
5 助言 amba-R5 SM1pl-FUT-選ぶ-F 1 議長

b. ***shauri** tu-taka-lo-chagu-a mwenyekiti
5 助言 SM1pl-FUT-R5-選ぶ-F 1 議長

以上(18)～(26)の例が示しているように，主名詞との間に因果関係が存在する場合には，amba-less 関係節を用いることはできないが，ama 関係節を使用することは可能である。ただし amba 関係節を用いるためには因果関係が明確に理解されている必要があり，因果関係が曖昧な場合には amba 関係節でも容認度が下がる。

5.2.2 時空間関係類

次に挙げるのは，相対的な時空間を表す語を主名詞になっている例である。

(27)「医者が手術した翌日」

a. **kesho** **yake** amba-yo mganga a-li-fany-a upasuaji
9 翌日 9 その amba-R9 1 医者 SM1-PAST-する-F 11 手術

b. ?**kesho** **yake** a-li-yo-fany-a upasuaji mganga
9 翌日 9 その SM1-PAST-R9-する-F 11 手術 1 医者

(28)「私が練り粥を作った朝」((12)の再掲)

a. **asubuhi** amba-yo ni-li-pik-a ugali
9 朝 amba-R9 SM1sg-PAST-料理する-F 11 練り粥

b. **asubuhi** ni-li-yo-pik-a ugali
9 朝 SM1sg-PAST-R9-料理する-F 11 練り粥

(27)と(28)はいずれも時が主名詞になっているが，(27)の主名詞は，「医者が手術をした」という関係節が示すイベントが起きた当日ではなく，それを基準にした「その翌日」という相対的な時間である。この点で，(28)のようにイベントが起きた当時が主名詞になる場合（この場合は「内の関係」）とは関係が異なる。相対的な時が主名詞になる場合は amba 関係節のほうが容認度は高いが，(27b)が示しているように amba-less 関係節も使えないわけではない。ただし，どちらの関係節においても yake「それの」という所有詞がなければ非文になる。

(29)は関係節のイベントが起きている場所ではなく，それを基準にした「その対岸」という相対的な空間である。この場合も amba 関係節のほうが容認度は高いが，amba-less 関係節も使えないわけではない。

(29)「木が燃やされている対岸」

a.	**ng'ambo**	amba-yo	miti	i-na-chom-w-a
	9 対岸	amba-R9	4 木	SM4-PRES-燃やす-PASS-F
b.	?**ng'ambo**	i-na-yo-chom-w-a		miti
	9 対岸	SM4-PRES-R9-燃やす-PASS-F		4 木

このように(27)と(29)を見る限り，amba 関係節に比べて amba-less 関係節は容認度が少し低いが，両方の関係節が使えそうである。

しかしながら，関係節の主名詞になることができる相対的時空間を表す語として現時点でわかっているのは kesho「翌日」と ng'ambo「対岸」のみである。「翌日」以外の相対的な時間を表す語としては baada「後」や kabla「前」などがあるが，baada の後ろに続くのは「前置詞 + 名詞句」であり，節を後続させることはできない。kabla は節を後続させることもできるが，関係節を続けることはできない。また ng'ambo「対岸」以外の相対的空間を表す語としては，mbele「前」，nyuma「後ろ」，kulia「右」，kushoto「右」，kando「傍ら」などがあるが，これらの語はいずれも「前置詞 + 名詞句」を続けなければならないという制限があるため，関係節に限らず節自体を続けることができない。したがって，確認できた例が上記の 2 つに限られているため，今の段階では時空間関係類についてはっきりしたことは言えない。

6. まとめと課題

amba-less 関係節が修飾できるのは主に「内の関係」にある名詞である。「外の関

係」のうち，内容補充の場合にはamba-less関係節を用いることもできるが，関係節に主語名詞が現れる場合，すなわち語順がVSやVOSになる場合は容認度が低くなる。これは内の関係には見られない制限であり，内容補充の場合には内の関係の場合以上に文法関係が明確であることが求められると言えるだろう。因果関係にある名詞はamba-less関係節を用いて関係節化することはできない。

一方，amba関係節は外の関係にある名詞も修飾することができる。内容補充の場合だけでなく因果関係にある名詞でも主名詞にすることができる。本稿に挙げた因果関係のamba関係節の例文の中には，話者によって容認度にゆれ見られるものもあった。しかしながら確かなことは，amba-less関係節が因果関係にある名詞を主名詞にすることができないのに対し，amba関係節の場合は，（たとえゆれはあったとしても）因果関係にある名詞を修飾することができるということである。因果関係が連想しにくい場合に容認度は下がるが，その場合でも因果関係を連想できる文脈を作れば容認度は上がる[5]。

スワヒリ語における2つの関係節の違いは，共起できるTA接辞や主語接辞，語順の制限の有無であるとされてきたが，ここまで示してきたように，2つの関係節には修飾できる範囲に大きな違いがある。amba-less関係節が修飾できる範囲は，内の関係および内容補充関係にある名詞に限られる。つまり英語における関係節と同格節にあたる範囲である。それに対してamba関係節が修飾できる範囲は日本語の名詞修飾節に匹敵するほど広い。スワヒリ語ではR接辞が付くものを「関係節」と呼んでいるため，本稿でも「amba関係節」と呼んでいるが，amba関係節は，いわゆる「関係節」の範囲よりもかなり広い範囲の名詞修飾節であることは明らかである[6]。

さてここで疑問が残る。amba-less関係節はamba関係節に比べて使用できる範囲がかなり制限されているにもかかわらず，両方の関係節の使用が可能な場合には圧倒的にamba-less関係節が用いられる。スワヒリ語版の『星の王子さま』[7]1章～3章では関係節が34か所ある。これらはすべてamba関係節の使用が可能であるはずだが，実

---

[5] 益岡(2010)は，日本語において相対的関係の連体修飾節を成り立たせているのは因果関係の解釈をするための言語外知識であると述べているが，スワヒリ語のamba関係節でも同様のことが言えそうである。

[6] Comrie(2002)は，このような名詞修飾節に対してattributive clauseという呼び方を提案している。

[7] *Mwana Mdogo wa Mfalme*. Dar es Salaam: Mkuki na Nyota Publishers

際にamba関係節が用いられているのは 5 か所のみである。この 5 か所のうち 3 つはTA接辞の制限によってamba-less関係節が使えないケース，1 つは主名詞の後ろに副詞が続いているため語順の制限によってamba-less関係節が使えないケースであった。つまり両方の関係節の使用が可能な場合にamba関係節が用いられているのは，30 か所のうち 1 か所のみということである。多くの制限があってもなおamba-less関係節が衰退せず，むしろamba関係節以上に用いられているのはなぜなのだろうか。amba-less関係節が好まれるのはどんな場合なのか。

amba-less 関係節の多くは，関係節の主語を主名詞にしたものである。つまり関係節の中に主語名詞が現れないため基本語順を変えなくてよい場合ということになる。しかしながら別の見方も可能である。すなわち amba 関係節がそれら主語の関係節化にあまり用いられていないということは，“amba－R 接辞” の直後に動詞を続けることが好まれないとも考えられる。amba-less 関係節が好まれる条件や amba 関係節が用いにくい条件についての検討は今後の課題としたい。

参考文献

加藤重広　2003　『日本語修飾構造の語用論的研究』東京：ひつじ書房.

寺村秀夫　1975　「連体修飾のシンタクスと意味－その 1－」『日本語・日本文化』4, 71-119.

寺村秀夫　1977　「連体修飾のシンタクスと意味－その 3－」『日本語・日本文化』6, 1-35.

中島　久　2000　『スワヒリ語文法』東京：大学書林.

堀江薫・パルデシ, プラシャント (2009)『言語のタイポロジー』東京：研究社.

益岡隆志　2010　「連体節構文における関係的意味」*KLS Proceedings* 30, 316-326.

Ashton, E. O.　1947　*Swahili Grammar*. (2nd edition), Essex: Longman.

Bearth, T.　2003　"Syntax."　In: Nurse, D.&G. Philippson (Eds.), *The Bantu languages*. London: Routledge. pp.121-142.

Schadeberg, Thilo C.　1992　*A Sketch of Swahili Morphology*. Köln: Rüdiger Köppe Verlag.